

9月末内定率過去最高

県内就職希望の来春高卒者

秋田労働局は、来年3月の県内新規高校卒業者の就職内定状況（9月末時点）を発表した。県内での就職を希望する生徒の内定率は59・5％で、前年同期に比べて9・8％増加した。1988年の調査開始以降、同時期としては過去最高となった。

県外希望者も含めた全体の内定率は前年同期比6・4％増の61・7％だった。9月末時点で6割を超えたのは33年ぶり。秋田労働局は、人手不足の影響で企業の採用意欲が高まっていることが要因とみている。

9月末時点の新規高卒予定者6980人のうち、就職を希望するのは

59.5%、人手不足要因か

1569人（前年同期比19人増）。県内就職希望者は1199人（同53人増）、県外就職希望者は370人（同34人減）だった。県内就職を希望する生徒の割合は76・4％で、9月末としては過去3番目に高かった。

内定者968人のうち、県内就職は713人。県外就職は255人で内定率は68・9％だった。

同局は「新規高卒者向けの企業説明会を早期に行ったことで、県内企業に注目が集まりやすくなったことや、内定通知を9月中に出す企業が例年よりも多かったことが内定率の高さにつながったのではないか」とみている。（加藤大輝）